

2022年度 学校法人滋慶学園 福岡医健・スポーツ専門学校 学校関係者評価委員会(2021年度評価シート)

【2022年5月20日実施】

2021年度 自己点検自己評価(2021年4月1日～2022年3月31日)

学校関係者評価委員氏名【 学校関係者評価委員 14名

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切に対応:4 ほぼ適切に対応:3 やや不適切:2 不適切:1			適切に対応:4 ほぼ適切に対応:3 やや不適切:2 不適切:1	
1	教育理念・目的・育人人材像	4	<p>1. 福岡医健・スポーツ専門学校は滋慶学園グループに属し、「職業人教育を通して社会に貢献する」ことをミッションとしている。このことを実践する為に、「実学教育」「人間教育」「国際教育」という3つの建学の理念を基本に教育を実施している。また、その結果として、学生・保護者からの信頼、高等学校からの信頼、産業界からの信頼、地域からの信頼という4つの信頼の獲得を目指している。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、「国際教育」の一環として実施している海外実学研修が中止となっているが、海外講師によるオンラインでの講義などその保管に努めている。</p> <p>2. 教育課程編成委員会を始め、業界のプロである講師、キャリアセンタースタッフによる企業訪問、教員による実習巡回など様々な機会を捉えて企業・業界から情報を収集し、業界のニーズに適合した人材育成に努めている。</p> <p>3. 教育理念の達成に向け、教育コンセプトとして「業界と共に業界に必要な即戦力の人材を育成し、業界に送り出す」という「産学連携教育」を開校以来、実践してきた。</p> <p>具体的には、講師の派遣、学習する題材としての企業課題や企業プロジェクトの提供、機材・機器選定のアドバイス、研修・実習の受入など、多岐に渡って協力を頂いている。</p> <p>また、新入生オリエンテーション、授業、ホームルーム、教科指導、実習指導、生活指導、就職指導などあらゆる機会を通して、3つの教育理念に基づく教育を実践している。</p> <p>4. 教育課程編成委員会や業界からのアドバイスに基づいて、社会のニーズや業界の変化に合わせて、適宜適切にカリキュラムや授業内容の改善を図っている。</p>	<p>職業人教育は、専門職業教育とキャリア教育から成る。専門職業教育とは、即戦力としての高度な技術・知識の習得であり、キャリア教育とは、プロの職業人として必要な人間力、仕事に対する身構え・気構え・心構えの習得及び職業観・勤労観の確立を言う。</p> <p>&lt;福岡医健・スポーツ専門学校 3つのポリシー&gt;</p> <p>(1)アドミッションポリシー(入学受入方針)</p> <p>①将来の夢や目標を持っている人。 ②好きな仕事を通じて、人に喜びや感動を与えたい人。 ③本校の教育内容や方針を十分に理解している人。 ④「好きなことを仕事にしたい」という気持ちを持っている人。</p> <p>(2)カリキュラムポリシー(教育編成方針)</p> <p>①実学教育:業界において求められる即戦力としての知識・技術を習得する。 ②人間教育:「今日も笑顔で挨拶を」のスローガンの下、社会人基礎力やセルフマネジメント、チームマネジメント、コミュニケーション力、職業観、仕事観などを学校生活のあらゆる機会を通して育成する。 ③国際教育:グローバル化している現代社会において、英会話教育や海外実学研修などを通して国際的な感性を養い、広く世界に通用する人材を養成する。</p> <p>(3)ディプロマポリシー(卒業認定等の方針)</p> <p>①各学科で定めた所定の単位を修得している。 ②業界が求める即戦力としての知識・技術を習得し、職業を通じて社会に貢献できる。 ③職業人としての身構え、気構え、心構えを身に付けると共に、コミュニケーションが取れる。 ④リーダーシップを発揮しながらも他者との協調が取れるなど、セルフマネジメント、チームマネジメントができる。 ⑤国際的な感性を身に付けている。</p>	④ 3・2・1	<p>・3つのポリシーを兼ね備えている為、学生は安心して勉強にいそむことが可能となっている。(丸田委員)</p> <p>・ニーズに合わせたカリキュラム変更は大変良い。学生にとっても卒業生を受け入れる職場にとってもより良いものになるよう今後も引き続き努力をお願いする。(相川委員)</p> <p>・アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーいずれも具体的でわかり易い内容になっている。(案西委員)</p> <p>・3つのポリシーに沿って実施している場問題ないと思う。(福田委員)</p> <p>・コロナ過では海外及び国内の外部講師の招へいは難しく、オンラインをうまく活用できている。(要委員)</p> <p>・教育の軸や方針をプラスことなく業界のニーズに合わせながら人材を送り出すことは大変だが、これからもふれずに進んでいただきたい。(西村委員)</p> <p>・教育理念、3つのポリシーはしっかりしている。社会人としての教育をしっかり実施していただきたい。(岩橋委員)</p> <p>・今年度も海外研修が中止となったことは残念だが、娘(在学)から聞く指導内容はしっかり理念にのっとったものとなっている。(松枝委員)</p> <p>・入学後実際に授業を受けることで夢や目標が変わることがあるので、各学期ごとに学生のモチベーションをこまめに把握する必要がある。(谷口委員)</p>
2	学校運営	4	<p>1. 滋慶学園の理念のもと策定された滋慶学園グループ5か年計画に基づいて、本校の運営方針を定めている。</p> <p>2. 滋慶学園グループ第6期5か年計画を受け、本校の事業計画を定めている。事業計画には、グループ全体の方針や方向性、組織、各部署における目標や取組、業務分掌、各種会議、研修など多岐に渡って明確に示されている。</p> <p>また、広報・教務・就職等各部署単位で具体的な目標設定がなされ、それに沿って各人が目標を設定し実行している。これを半期ごとにチェック・管理している。</p> <p>内容は、事業計画の核を成す組織目的、運営方針、実行方針、実行計画で構成される。事業計画は、法人常務理事会、法人理事会の決議を受けて承認され、全教職員に周知徹底している。</p> <p>3. 理事会・評議員会は寄附行為に基づき適切な時期に開催され、必要な審議がなされ、適切な手続きを経て適切に組織を運営している。</p> <p>4. 事務局長会議、教務部長会議、また学校単位では、全体会、リーダー会議、教務会議、学科会議、国試会議、DO会議、広報会議、各種研修・勉強会等を定期的実施し、全ての教職員が組織の方針や考え方を十分に理解したうえで、同じ目的・目標に向かって協力の下、適切な学校運営の実践とイノベーションに務めている。</p> <p>5. 滋慶学園グループの人事・給与等を包括的に管理する(株)滋慶サービスの下、適切に運営されている。また、人事・給与に係る制度は、就業規則に明文化され、全教職員に周知・共有されている。</p> <p>6. 事業計画の組織図には、学校に関わる人材が明記され、自己の組織上の位置づけを誰もが理解できるようになっている。そして、この組織図に基づいて、適切に意思決定がなされている。決定項目によって、事務局長、広報部長、教務部長、課長、学科長、主任等への更なる権限委譲を図り、より効率的かつ迅速な意思決定を行う。</p> <p>7. 滋慶学園グループには、IT・情報システムに関わるサポート企業として、(株)プレーンスタッフコンサルタンツと(株)国際教育センターVISTA ARTSの2社があり、情報のシステム化と効率化を図っている。</p>	<p>2021年度は第6期5か年計画の5年目(最終年度)。</p> <p>滋慶学園の「人は仕事を通して成長する」という考えの下、滋慶学園グループの研修、学校の研修、学科・部署単位の研修、現場で行うOJT、個人で取り組む自己啓発等を通して職員の成長を促進し、学校運営力、クラス運営力の向上を図っている。</p> <p>滋慶学園グループの理念を明文化した「滋慶語録」について、朝礼において2020年度はマネージャーが解説を加えスタッフに周知させたので、2021年度はそれを受けて各スタッフが日々の業務でどのように活用しているかスピーチするなど、理念の周知徹底に取り組み、理念に沿った適切な組織運営を図っている。</p> <p>また、学科ごとに、それぞれの業界が主催する専門分野に関する研修会にも積極的に参加して、最新の技術・知識の習得を図ると共に、常に業界のニーズの把握に努めている。</p> <p>&lt;滋慶学園7つの視点&gt;</p> <p>①攻めと守りの視点 ②グローバルな視点 ③一人ひとりを見てゆく視点 ④企業・業界・社会を見てゆく視点 ⑤事業運営力を持つ視点 ⑥スタッフが成長していく視点 ⑦理念・コンセプト徹底の視点</p> <p>&lt;人事管理・支援制度&gt;</p> <p>①勤怠管理システム(働き方改革) ②滋慶EPA職員サポートセンター</p>	④ 3・2・1	<p>・職員の成長を図る際、それを数値化する指標やラダー等があるとよいと思う。(丸田委員)</p> <p>・適切に運営されている。(相川委員)</p> <p>・教務会議、国試会議や全教職員への面接を行うなど想定しうる様々な取り組みで学校運営を行っていることは評価できる。(案西委員)</p> <p>・人は仕事を通して成長するという考えは素晴らしい。ぜひ学生に仕事の素晴らしさを教えていただきたい。(福田委員)</p> <p>・業界のニーズなどは社会情勢で変わるので常に情報収集に努めてほしい。(要委員)</p> <p>・運営システムは素晴らしい。しかし、システムではフォローしきれない現場レベルのスタッフ間のコミュニケーションや意思疎通をどう強化するかを考える必要がある。(西村委員)</p> <p>・滋慶学園グループ5か年計画に基づいた運営がしっかりなされている。また、滋慶学園7つの視点もとても良い。(岩橋委員)</p> <p>・一かり考えられ、運営されている。(松枝委員)</p> <p>・学生はどのようなことを通して成長するのが、自分と向き合うときはどんな時か。(恒吉委員)</p>

<p>3 教育活動</p>	<p>1. 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか 2. 学科ごとの修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか 3. 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか 4. 教育課程について、外部の意見を反映しているか 5. キャリア教育を実施しているか 6. 授業評価を実施しているか 7. 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか 8. 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか 9. 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか 10. 資格・免許取得の指導体制はあるか</p>	<p>3</p>	<p>1. 「職業人教育を通して社会に貢献する」という滋慶学園グループのミッションの下、建学の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」に基づいて教育課程編成方針・実施方針を定め、教育を行っている。 2. 学科ごとに教育到達レベルを明確に設定し、それを学生便覧及び教育指導要領に記載するとともに、HPIにもアップしている。加えて、すべての科目のシラバスをHPIにて公開している。 3. 滋慶学園グループ五カ年計画のもと作成する学校全体の事業計画に基づいて、教務部としての事業計画を立案し、養成目的と到達目標を明確にし、それに沿った教育課程を編成し、計画的に教育を行っている。 4. 業界のプロである講師からの情報やキャリアセンタースタッフによる企業訪問、教務スタッフによる実習巡回に加え、教育課程編成委員会等を最大限活用して、業界のニーズを的確に捉え、その変化に対応して養成目的や教育目標、カリキュラムの改善を常に実施し、イノベーションを図っている。 5. 実学教育として技術・知識を身に付ける「専門職業教育」に加え、人間教育として職業観・勤労観や仕事に対する身構え・気構え・心構えを身に付ける「キャリア教育」双方を兼ね備えたバランスの良い職業人教育を行っている。このキャリア教育は、授業、実習、就職、イベント、生活指導などあらゆる機会を捉えて実施している。 6. 年2回、学生に授業アンケートを実施し、授業評価を行いながら学生の授業に対する満足度の把握・向上に努めている。 7. 成績評価や進級・卒業認定基準は学則で明確に決められており、それを学生便覧及び教育指導要領に記載して、学生、教職員、講師に周知徹底している。そして、進級判定会議や卒業判定会議を通して、適切に運営されている。 9. 目標とする資格・免許は教育課程上で明確に位置づけられており、それを学校パンフレット、学生便覧、教育指導要領等に明記し、学生・教職員・講師に周知している。 10. 滋慶学園グループには、国家試験対策を包括的、科学的、システムの支援する国家試験対策センターがある。加えて、学校独自で補習、個別指導、グループ学習などを実施している。また、学力を可視化することにより客観的な視点を持ち、一人ひとりのレベルに合わせた指導・対策を行っている。更には既卒の国試不合格者に対してもリスタートセンター等を設置し、卒業後も国試合格に向けた取り組みを実施している。</p>	<p>本校では、職業教育のアプローチとして、3つに時期を捉え、入学前のキャリア形成から、在学中のキャリア設計、卒業後のキャリア開発まで学生の育成・成長にフォローに関わり、一人ひとりを大切に教育を行っている。</p> <p>①キャリア形成 入学前の時期に、オープンキャンパスやマイスクールを通して、基盤となる勤労観・職業観の形成と確立をする時期。</p> <p>②キャリア設計 在学中は、専門職業に就くプロセスの設計と能力の習得をする時期。</p> <p>③キャリア開発 卒業後は、卒業教育等を通して、社会・職業人への移行と更なるキャリア開発をする時期。</p> <p>&lt;滋慶学園グループの各種組織・システム&gt; ① 滋慶教育科学研究所 ・キャリア教育部会(カウンセラー委員会 進路変更委員会 その他) ・専門教育部会(教育分科会 産学連携委員会 FD委員会 その他) ・国際教育部会 ・教育分科会 ② 滋慶教育科学研究所 国家試験対策センター ・J-web(国家試験対策e-Learningシステム)等 ③(株)国際教育社 ILC国際語学センター(外国語教育担当部門)</p> <p>&lt;新型コロナ感染症への対応&gt; ①可能な限り対面授業を基本として実施している。感染拡大状況によりやむを得ずオンライン授業となる場合も、教育の質を落とさず必要な技術・知識が身につくよう、完全のフォローに努めている。 ②臨地実習や業界研修についても、病院や企業と調整の上でできる限り実施している。やむを得ず学内実習となる場合も、実施方法や内容を工夫してできる限り現場に近い環境で実施し、必要な実践力を習得できるよう努めている。</p> <p>&lt;その他の教育&gt; ①ITリテラシー教育 インターネットやSNSにおけるトラブルや被害から学生を守るため、毎年継続的にITリテラシー教育を行っている。 ②AzureAI試験</p> <p>&lt;卒業生対象教育制度&gt; ①卒業後教育制度 ②聴講生制度 ③卒業生対象国家試験対策リスタートセンター</p>	<p>④ 3・2・1</p>	<p>・変化に応じた教育方法などを継続するとよい。(中西委員) ・キャリア形成において、入学希望者に対して必要な場合学力テストをしているとのことだが、どのような学生が対象か。(丸田委員)⇒看護科を一般(併願)で受験する場合に実施している。 ・オンライン授業の可能性がまだ残っているが、より効率的な利用を図り学習が促進することを希望する。(相川委員) ・授業評価を積極的に取り組んでいること、カリキュラムなどキャリア形成を第一に念頭に置いていることを評価できる。(案西委員) ・オンライン授業に対する学生の反応、手ごたえを講師へ伝えることが重要である。(福田委員) ・講師の入れ替えなど対応は良くできている。教育理念と学生の考えが必ずしも一致しないこともあるので、その対応が重要である。(要委員) ・職業観については「好き」だけでは仕事にならない事、業界の難しい部分など現実を伝え、それを突破できるタフな人材を養成してほしい。(西村委員) ・コロナ禍の中で行う教育活動は難しい部分もあるが、オンライン授業を受ける学生のフォローをしっかりと行い、社会人としての教育を行ってほしい。(岩橋委員) ・学生一人ひとりに対するサポートが厚く、保護者として安心して預けている。授業が分かりにくい講師がいると娘から聞いていたので、学生の授業アンケートに基づいた努力をしていただいていることほうれしく思う。(松枝委員) ・オンライン授業においてギガの関係で学生の画面がOFFになっていることが多いので、対策が必要だと思われる。(谷口委員) ・私語や居眠りする学生に対しては、しっかり指導すべきである。(恒吉委員) ・挨拶の意味、目的をしっかりと理解させ、しっかり挨拶ができるように指導すべきである。(恒吉委員)</p>																																																																																	
<p>4 教育成果</p>	<p>1. 就職率の向上が図られているか 2. 資格・免許の取得率の向上が図られているか 3. 卒業生の社会的評価を把握しているか</p>	<p>3</p>	<p>1. 就職率 2021年度生4月30日現在実績 就職希望者:289名 就職者:277名 就職率:95.8% 就職100%達成予定:5月末日</p> <p>2-1. 国家試験合格率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>受験者</th> <th>合格者</th> <th>合格率</th> <th>全国平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>柔道整復師</td> <td>54</td> <td>29</td> <td>53.7</td> <td>81.0</td> </tr> <tr> <td>はり師</td> <td>33</td> <td>32</td> <td>97.0</td> <td>90.3</td> </tr> <tr> <td>きゆう師</td> <td>33</td> <td>32</td> <td>97.0</td> <td>91.4</td> </tr> <tr> <td>救急救命士</td> <td>27</td> <td>26</td> <td>96.3</td> <td>91.6</td> </tr> <tr> <td>理学療法士</td> <td>53</td> <td>41</td> <td>77.3</td> <td>88.1</td> </tr> <tr> <td>作業療法士</td> <td>21</td> <td>21</td> <td>100</td> <td>88.7</td> </tr> <tr> <td>歯科衛生士</td> <td>34</td> <td>34</td> <td>100</td> <td>95.6</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>40</td> <td>38</td> <td>95.0</td> <td>96.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>2-2その他資格</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>受験者</th> <th>合格者</th> <th>合格率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>健康運動実践指導者</td> <td>46</td> <td>21</td> <td>45.6</td> </tr> <tr> <td>アスレティックトレーナー(筆記試験)</td> <td>16</td> <td>5</td> <td>31.3</td> </tr> <tr> <td>登録販売者</td> <td>25</td> <td>20</td> <td>80.0</td> </tr> <tr> <td>ヘルスケアアドバイザー</td> <td>17</td> <td>8</td> <td>47.1</td> </tr> <tr> <td>医療秘書技能検定(2級)</td> <td>6</td> <td>1</td> <td>16.7</td> </tr> <tr> <td>医事コンピュータ</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>電子カルテ</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>診療情報管理士</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 新型コロナ感染症拡大の影響で、キャリアセンタースタッフによる企業訪問ができておらず、卒業生の社会的評価の把握は十分とは言えない。そこを補うため、教員による臨地実習訪問等を活用して把握に努めている。</p>		受験者	合格者	合格率	全国平均	柔道整復師	54	29	53.7	81.0	はり師	33	32	97.0	90.3	きゆう師	33	32	97.0	91.4	救急救命士	27	26	96.3	91.6	理学療法士	53	41	77.3	88.1	作業療法士	21	21	100	88.7	歯科衛生士	34	34	100	95.6	看護師	40	38	95.0	96.5		受験者	合格者	合格率	健康運動実践指導者	46	21	45.6	アスレティックトレーナー(筆記試験)	16	5	31.3	登録販売者	25	20	80.0	ヘルスケアアドバイザー	17	8	47.1	医療秘書技能検定(2級)	6	1	16.7	医事コンピュータ	7	7	100	電子カルテ	7	7	100	診療情報管理士	5	3	100	<p>&lt;定性目標&gt; ①即戦力としての実践力を身に付ける。 ②人間力を身に付ける(仕事に対する身構え・気構え・心構え)。 ③組織の中で力を発揮する為のコミュニケーション能力を身に付ける。 ④プレゼンテーション能力を身に付ける。 ⑤チームとして仕事をする為のチームワークとリーダーシップを身につける。 ⑥職業観・勤労観を確立する。</p> <p>&lt;就職&gt; ①就職率100%(3/31)を目標とする。 ②第1専門職での就職。 ③ミスマッチによる早期退職の防止。 ※奨学金貸与と学生に対しては、余裕をもって返済可能な収入を確保できる就職先の斡旋に努めている。</p> <p>&lt;資格取得&gt; ①滋慶学園JESCO国家試験対策センターと連携した国家試験対策を実施している。 ②本校独自に国家試験対策会議を実施し、成功事例の共有や適切な対策を行っている。 ③全体的な課題として、成績上位者と下位者の学力の差が大きい傾向にあり、成績下位者の学力を低学年より向上させる学習システムが必要である。また、新入生については、基礎学力が非常に低い、あるいは学習習慣が身につけていない学生もいることから、基礎学力の向上の取り組みに加え、生活習慣の改善及び学習習慣の確立に努めている。</p>	<p>4 ③ 2・1</p>	<p>・複数の資格取得が必須になっている学科で、本命の資格合格に影響しているのであれば、本命の資格合格後にその他の資格を受験させるなど、まずは本命の資格取得に集中させる場記である。(中西委員) ・成績下位者に対して学習チェックプログラムを実施し、ドリル等で成績向上を図り格差をなくす取り組みに期待する。(丸田委員) ・学生の基礎学力とやりたい仕事に必要な学力のミスマッチはなかなか是正が難しいが、そこをぜひとも支援していただきたい。(相川委員) ・大半の学科で全国平均を上回っている合格率を出していること、基礎力をつけるためのオリジナルの学習プログラムなどは評価できる。(案西委員) ・国家試験については、全学科全国平均以上の実績を出すことを求める。(福田委員) ・就職率のみならず、就職後の定着率や本当に希望の就職先であるかが重要である。(要委員) ・システムがあっても意欲がないと機能しないので、学生の本文は学ぶことであることを学生にしっかりと理解させる必要がある。(西村委員) ・スポーツ科学科に於ける資格合格率の低さは課題である。(西村委員) ・就職率100%も大切であるが、国家資格を始めとした資格取得も重要であるので、資格試験合格率100%を目指して対策を実施してもらいたい。(岩橋委員) ・専門学校なので国家資格は全員合格するものと思っていたので、国家試験合格率が気になる。就職後のことも親身に相談に乗っていただいているので安心した。(松枝委員) ・卒業生の社会貢献は、学校の育成の評価の観点からもとても重要である。(谷口委員) ・学生としては、将来を考えると就職率もそうだが資格取得も重要となるので、今後も充実した取り組みを期待する。(戒崎) ・一部の国家資格の合格率の改善を望む。(恒吉委員)</p>
	受験者	合格者	合格率	全国平均																																																																																			
柔道整復師	54	29	53.7	81.0																																																																																			
はり師	33	32	97.0	90.3																																																																																			
きゆう師	33	32	97.0	91.4																																																																																			
救急救命士	27	26	96.3	91.6																																																																																			
理学療法士	53	41	77.3	88.1																																																																																			
作業療法士	21	21	100	88.7																																																																																			
歯科衛生士	34	34	100	95.6																																																																																			
看護師	40	38	95.0	96.5																																																																																			
	受験者	合格者	合格率																																																																																				
健康運動実践指導者	46	21	45.6																																																																																				
アスレティックトレーナー(筆記試験)	16	5	31.3																																																																																				
登録販売者	25	20	80.0																																																																																				
ヘルスケアアドバイザー	17	8	47.1																																																																																				
医療秘書技能検定(2級)	6	1	16.7																																																																																				
医事コンピュータ	7	7	100																																																																																				
電子カルテ	7	7	100																																																																																				
診療情報管理士	5	3	100																																																																																				

<p>5 学生支援</p>	<p>1.就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか 2. 退学率の低減が図られているか 3. 学生相談に関する体制を整備しているか 4. 留学生に対する相談体制を整備しているか 5. 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか 6. 学生の健康管理を行う体制を整備しているか 7.学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか 8. 課外活動に対する支援体制を整備しているか 9. 保護者との連携体制を構築しているか 10. 卒業生への支援体制を整備しているか 11. 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか 12. 社会のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか</p>	<p>3</p>	<p>1. 就職については就職を専門とするキャリアセンターが担当し、学内で実施する合同企業説明会、就職ガイダンス、就職出陣式などの就職イベントの実施を始め、求人獲得、履歴書指導、面接指導、業界情報の収集およびフィードバックなど様々な支援を行っている。また、卒業式までに就職が決まらない場合でも、全員の就職が決まるまで卒業後も支援を続けている。合わせて、卒業後の転職・再就職も支援している。</p> <p>2. 本校は担任制度を引いており、担任を中心にポートフォリオや個別面談等を駆使して一人ひとりの学生に対して細やかな支援を行っている。また、退学理由の分析や退学防止対策、成功事例などについて研修や勉強会を随時実施し担任力の向上を図ると共に、滋慶学園グループ独自の支援機関や支援制度を活用して退学率の低減に努めている。</p> <p>3. 担任による相談に加え、学生の相談支援機関として、滋慶トータルサポートセンター福岡を設置し、常駐のスクールカウンセラー（公認心理師・臨床心理士）がカウンセリングも実施している。</p> <p>4. 留学生に対する支援や相談を包括的に実施する機関として国際交流COMがあり、その下に各地区に留学生担当を設け、担任と連動して留学生支援に当たっている。</p> <p>5. 経済的支援については、相談窓口として学費担当を設置するほか、学費や奨学金、教育ローン等についてのアドバイスをするファイナンシャルアドバイザー及び奨学金担当者を配置している。また、学費分割納入制度、留年時の学費を免除する長期履修制度、滋慶学園独自の滋慶奨学金など、様々な支援体制を整備している。また、コロナ禍における保護者の収入減等に伴い、国や県の補助金を積極的に活用して支援をしている。</p> <p>6. 毎年1回、在校生の健康診断を実施している。また、健康支援として慶生会クリニックがあり、在学中の健康維持支援を行っている。診療科目は、内科、歯科で、治療費の自己負担はなく、薬代も返金される。</p> <p>7. 6棟645名分の滋慶学園専用寮や学生食堂、駐輪場などを設置し、生活環境支援を行っている。</p> <p>8. 学生の課外活動であるクラブ活動も様々あり充実しているが、2021年度はコロナ禍にて部活動は休止している。</p> <p>9. 保護者との連携は、定期的な成績報告・出席報告・保護者会の実施に加え、学生の状況に応じて、担任が常に保護者と情報共有・連携・協力している。また、必要に応じて三者面談を行うなど保護者と連携した学生支援に当たっている。</p> <p>10・11. 卒業生に対する支援としては、定期的・継続的に卒業教育を実施すると共に、同窓会を実施し情報の共有を図っている(2021年度は中止)。</p> <p>12. 社会環境の変化に応じて、常に学科、コース、教育内容等のイノベーションを図り、社会のニーズを踏まえた教育環境を整えている。</p>	<p>&lt;求人件数&gt; 2020年度 3,149企業 2021年度 3,368企業</p> <p>&lt;中途退学&gt; 2020年度実績 在籍者:1,315名 退学者:56名 退学率:4.3% 2021年度実績 在籍者:1,296名 退学者:72名 退学率:5.6% ※2017(6.6%)▶2018(5.8%)▶2019(5.6%)</p> <p>①中途退学にいたる主な理由としては、目的意識の喪失、学力不足、対人関係等であった。 ②学生満足度向上強化学科(1年D07%or全体5%以上の学科)を2018年度から指定し対応しており、当初は6学科あったが2021年度は3学科(柔道整備、救急救命公務員、歯科衛生士)に減った。</p> <p>&lt;2021年度留学生数&gt; 1名(歯科衛生士科) 滋慶学園グループでは、「学生はゲスト」というコンセプトの下、学生満足の向上のため、様々な支援体制を整備している。</p> <p>&lt;主な支援機関&gt; ① 滋慶トータルサポートセンター福岡 ② 医療法人慶生会 慶生会クリニック(内科・歯科) ③ 慶生鍼灸院 ④ キャリアセンター ⑤ 滋慶学園専用寮(スチューデントハイム・アソシエイト) ⑥ 学生食堂(滋慶レストラン) ⑦ 学費担当・奨学金担当 ⑧ ファイナンシャルアドバイザー ⑨ 進路変更委員会 ⑩ 国際交流COM</p> <p>&lt;主な支援制度&gt; ① 進路変更制度 ② 長期履修制度 ③ 学費分割納入制度 ④ 滋慶奨学金 ⑤ 担任制度 ⑥ 聴講生制度 ⑦ 卒業後教育制度 ⑧ 既修得単位認定制度</p> <p>&lt;その他&gt; ① 各種クラブ活動 ② 駐輪場の整備 ③ 高等教育修学支援新制度の対象機関として認定</p>	<p>4 ③ 2・1</p>	<p>・学生満足度向上のヒアリングは、直接学生にアンケートを取るなど、学生の要望にずれがないようにすべきである。(中西委員) ・退学者が多く出る月の前に適切な対策を行うことが重要である。(中西委員) ・学生満足度向上強化学科に指定・対応しているにもかかわらず、3学科が依然として残っているのは問題である。原因を分析して更なる対策が必要である。(丸田委員) ・全ての項目で努力を認められる。特に、国家試験合格までフォローしている点は学生も安心であると思う。(相川委員) ・中途退学者対策として、学生満足度を取り入れていることや経済的支援に注力していることは評価できる。(案西委員) ・コロナ禍において、学生に対してこれだけ支援できれば良いと思う。(福田委員) ・中途退学者については、調査結果に基づいて対処することを求める。(要委員) ・コロナ禍で難しい中、手厚い支援がなされている。今後は卒業教育が再開されることを期待する。(西村委員) ・中途退学となった学生の理由を明確にして十分なコミュニケーションとサポートを実施し、退学率0%を目指してほしい。(岩橋委員) ・医療系ということで学ぶことが多く娘も試験前はいつもアップアップしている。それでもあきらめずに頑張っているのは、担任の先生とクラスの仲間のおかげと感謝している。(松枝委員) ・中高ともコロナ禍でもクラブ活動は行われているので、再開しても大丈夫と思う。(松枝委員)</p>
<p>6 教育環境</p>	<p>1. 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか 2. 学外実習、インターシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか 3. 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか 4. 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか</p>	<p>4</p>	<p>1. 施設・設備・機器類などについては、設置基準及び関連法規に全て適合しているだけでなく、その目的を達成する為に必要な最新の施設・設備を揃え、常に万全の状態でも活用できるよう定期点検・維持管理を行っている。コロナ禍にて遠隔授業が可能となるよう、必要な環境整備(ZOOMやTEAMS等)を実施した。</p> <p>2. 即戦力としての技術・知識・実践力を身に付けさせる為に、多岐に渡る様々な実習先の開拓を常に行い、臨地実習・学外実習・海外研修等の実施体制を整備している。 ※2021年度海外実学研修は中止。</p> <p>また、それぞれの業界のプロとして、現場経験豊富で高い技能を有した優秀な人材を常に発掘して、講師として就任して頂いている。</p> <p>3. 防災計画を策定し、それに基づいて防火管理者を始めとして防災組織体制を構築している。また、年2回の避難誘導訓練を実施すると共に、ゲリラ豪雨や竜巻、地震など異常気象に備えて、学生の危機意識の確立を図って安全確保に努めている。</p> <p>4. ガードマンが常駐し、館内警備にあたると共に、安心安全な教育環境を学生に提供するために、自転車安全講習、薬物乱用防止講習、悪徳商法被害防止講習、女性犯罪被害防止講習など様々な安全講習を実施している。</p> <p>5. 校内の整理・整頓・清掃・整備を徹底し、学生が気持ちよく最善の環境で勉強できるよう、常に万全の体制を整えている。</p> <p>6. コロナ禍に伴い、学校玄関にAIサーマルカメラ、各教室、実習室、教務室には、エアバスター(オゾン脱臭機)を設置。また講義用シールドを全教室・実習室に設置。学生は実習など必要に応じてフェイスシールドも使用。トイレや手すり等公共で使用する場所は専門業者にて除菌実施。(2回/日)</p>	<p>滋慶学園グループには、滋慶教育科学研究所(JESC)を始めとして、教育環境をサポートする企業・組織が多く存在し、グループ総力を挙げて教育環境の整備にあたっている。</p> <p>&lt;サポート企業・組織の一例&gt; ① ジケイ・スペース(株) ② DUCE ③ (株)プレーンスタッフコンサルタンツ ④ VISTA ARTS ⑤ 西部建設</p> <p>&lt;その他&gt; ① ガードマンの配置による安全確保 ② 緊急時安否確認システムによる学生の安全確保の推進</p> <p>&lt;安全衛生委員会&gt; 看護科の教員を中心に安全衛生委員会を組織して、「新型コロナウイルス感染対策マニュアル」を作成し、万全な感染対策に努めている。</p>	<p>④ 3・2・1</p>	<p>・自転車安全講習を実施しているが、被害者にも加害者にもなりうるので自転車保険への加入を必須とすべきである。(中西委員) ・海外研修が困難な昨今においても世界のコロナ事情を学ぶ機会を与えていることは、学生にとって有益で身になることである。(丸田委員) ・新型コロナウイルス感染症に対しては十分な対策がなされている。(相川委員) ・校内のWifi環境の整備や防災訓練など教育環境の整備は良くできている。(案西委員) ・特に問題なし。(要委員) ・教育面、安全面、衛生面全てにおいてよい環境が整備されている。(西村委員) ・教育環境は問題ない。(岩橋委員) ・他の学校と比較しても設備はとてつよい。防災対策もしっかりなされており素晴らしい。(松枝委員) ・今後18歳以上が成人となるため、学生を守るためより注意が必要である。(谷口委員)</p>

<p>7 学 生 の 募 集 と 受 け 入 れ</p>	<p>1. 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか 2. 学生募集を適切かつ効果的に行っているか 3. 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか 4. 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか 5. 経費内容に対し、学納金を算定しているか 6. 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取り扱いを行っているか</p>	<p>3</p>	<p>1. 高等学校等への情報提供窓口として専任の担当者を設けている。また、定期的・継続的に高校訪問を実施しているほか、各種媒体、入学案内パンフレット、各種ガイダンス、オープンキャンパス、ホームページや各種SNSなどを活用して、適宜適切に正しい情報を提供に努めている。</p> <p>2. 本校は、福岡県専修学校各種学校協会に加盟し、高等学校と同会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容を遵守している。</p> <p>また過大な広告を一切廃し、必要な場合は根拠数字を記載するなど、適切な学生募集を行うように配慮すると共に、広告倫理委員会を設置し、適切に広報活動が行われているかをチェックしている。</p> <p>3. 入学資格、出願方法、選考日程、専攻科目等の入学選考基準を学生募集要項に明示するとともにホームページにもアップしている。これに基づいて入学選考を行い、「入学選考会議」により可否を決定している。なお、本校における入学選考は、学生募集要項にも明示している通り、「面接」及び「作文」「調査書」による書類選考であるが、その基準となるのは、「目的意識」である。将来目指す業界への職業意識や具体的な目標がしっかりしているかを確認すると共に、その目的が本校より提供する教育プログラム及びカリキュラムにおいて実現可能かを確認するものである。ただし、競争倍率が一定程度発生する看護科に於いては、それらに加え「現代文」「数 I」「小論文」の筆記試験を行なっている。</p> <p>4. 入学選考に伴う面接や高等学校調査書において収集した情報・実績を把握・活用し、授業改善に努めている。また、高校生の動向を探るために専門業者と連携し、各学科の人気度の把握に努める。学校全体で行うアンケートの集約には時間がかかる為、Googleフォームでアンケート調査を行い、授業開始時期に間に合うスケジュールで入学者の傾向把握を行っている。</p> <p>5. 学校納付金については、事業計画に基づいて経費内容を十分に吟味・考慮の上、適正に設定されている。</p> <p>6. 入学辞退者の授業料等については、3月31日までに入学辞退の申し出があった場合は、入学金を除き学費等を全て返還している。しかし、4月1日以降は、最高裁の判例に基づき、海外研修積立金などの預り金以外は、返金できない。また、このことは、学生募集要項に於いて、「学費一覧」ページに明記している。</p>	<p>本校の広報活動は、入学前のキャリア形成の時期と捉え、オープンキャンパスを通して、自己発見をすると共に、基盤となる職業観・勤労観を確立してもらうことを目的としている。よって、入学前に職業イメージをどれだけ明確に持っているかが大切と考え、オープンキャンパスや説明会への複数回の参加を促し、本校及び目指す職業を充分理解し、疑問を解消した上で出願してもらうことを心がけている。</p> <p>&lt;2022年度新入生&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学科</th> <th>新入生</th> <th>定員</th> <th>充足率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>柔道整復科</td> <td>99名</td> <td>90名</td> <td>110%</td> </tr> <tr> <td>鍼灸科</td> <td>60名</td> <td>60名</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>救急救命公務員科</td> <td>41名</td> <td>35名</td> <td>117.1%</td> </tr> <tr> <td>理学療法科</td> <td>88名</td> <td>80名</td> <td>110%</td> </tr> <tr> <td>作業療法科</td> <td>25名</td> <td>40名</td> <td>62.5%</td> </tr> <tr> <td>薬業科</td> <td>20名</td> <td>40名</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>歯科衛生士科</td> <td>40名</td> <td>40名</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>看護科</td> <td>42名</td> <td>40名</td> <td>105%</td> </tr> <tr> <td>スポーツ科学科</td> <td>69名</td> <td>80名</td> <td>86.3%</td> </tr> <tr> <td>スポーツマネジメントテクノロジー科</td> <td>9名</td> <td>20名</td> <td>45%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>493名</td> <td>525名</td> <td>93.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※2021年度実績：新入生424名 定員充足率84.0%から改善はしているものの、学科によって定員充足率にばらつきがあるため、定員充足率を高めるための更なる取り組みを行う必要がある。</p>	学科	新入生	定員	充足率	柔道整復科	99名	90名	110%	鍼灸科	60名	60名	100%	救急救命公務員科	41名	35名	117.1%	理学療法科	88名	80名	110%	作業療法科	25名	40名	62.5%	薬業科	20名	40名	50%	歯科衛生士科	40名	40名	100%	看護科	42名	40名	105%	スポーツ科学科	69名	80名	86.3%	スポーツマネジメントテクノロジー科	9名	20名	45%	合計	493名	525名	93.9%	<p>4 ③ 2・1</p>	<p>・定員充足率が低い学科は、更なる対策が必要である。高校生だけでなく、中学生や小学生へのアプローチも有効ではないか。(中西委員) ・作業療法科の定員充足率は例年にわたって約6割と低いが何か対策を講じているのか。(丸田委員)⇒高校訪問等で生徒・先生へ作業療法士の周知活動を強化している。 ・定員充足率の向上のための更なる取り組みを期待する。(相川委員) ・2021年度と比較して2022年度は定員充足率が向上していることは評価できる。オープンキャンパスでの丁寧な取り組みの成果だと思われる。(案西委員) ・全学科定員充足率100%を目指してほしい。(福田委員) ・全学科定員充足率100%を目指してほしい。100%を超えた学科については次年度は注意が必要。(要委員) ・スポーツマネジメントテクノロジー科(4年制)は、大学との差別化が重要である。(西村委員) ・オープンキャンパスの実施回数は十分と思うが、定員充足率100%を目指した取り組みを実施してほしい。(岩橋委員) ・進学に胸躍らせて入学してくるので、スポーツマネジメントテクノロジー科の学生は同級生が9人ということで、少しかわいそうな気がする。来年度はもっと入学者が増えることを期待する。(松枝委員) ・2年制と4年制のスポーツ系2学科の違いを入学希望者へしっかり理解させる必要がある。(谷口委員) ・作業療法については、卒業後のニーズも広く高いと思われるので、募集移管で伸びしろは大きいと考える。(稲富委員)</p>
学科	新入生	定員	充足率																																																			
柔道整復科	99名	90名	110%																																																			
鍼灸科	60名	60名	100%																																																			
救急救命公務員科	41名	35名	117.1%																																																			
理学療法科	88名	80名	110%																																																			
作業療法科	25名	40名	62.5%																																																			
薬業科	20名	40名	50%																																																			
歯科衛生士科	40名	40名	100%																																																			
看護科	42名	40名	105%																																																			
スポーツ科学科	69名	80名	86.3%																																																			
スポーツマネジメントテクノロジー科	9名	20名	45%																																																			
合計	493名	525名	93.9%																																																			
<p>8 財 務</p>	<p>1. 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか 2. 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか 3. 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか 4. 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか 5. 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか 6. 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか</p>	<p>4</p>	<p>1. 毎年5か年の事業計画を作成し、中長期の視点で5か年の収支予算を立てており、財務基盤は安定している。</p> <p>2. 5か年計画及び単年度事業計画に基づいて、滋慶学園本部、法人本部、学校がそれぞれの立場から財務分析を行っている。</p> <p>3. 5か年の予算は、中長期を見越した新学科構想、施設・設備構想、人員構想等を考慮して支出を計画し、将来の学生数等を鑑みながら収入を予測し、収支計画を作成している。</p> <p>4. 適切かつ適正な予算管理を行うため、費用対効果を十分に考慮した効率的な予算執行を行うと共に、予算の執行・消化状況を毎月チェック・管理している。また、一旦作成した予算であっても現実と乖離した場合は、当初予算を修正する必要がある。その為、短期予算においては、半期が終了した段階で修正予算を組み、中長期予算においては、毎年編成をしない。</p> <p>5. 学園本部の機能として二重チェックの体制となっており、学校の財務体制をしっかりと管理し、健全な学校運営が出来ている。</p> <p>また収入と支出のバランスは、理事会で毎年確認されている。</p> <p>さらに、監査は私立学校法上義務付けられている「監事監査」のほか、「公認会計士による監査」も受けている。</p> <p>6. 私立学校法に基づいて、ホームページで財務情報を公開している。現在は、令和2年度財務情報を記載しているが、決算理事会終了後の2022年6月末を目途に、令和3年度財務情報に更新予定。</p>	<p>当校が属する法人の財務情報公開に関しては、下記の通りとなっている。</p> <p>&lt;組織体制&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法人統括責任者</li> <li>2. 学校統括責任者</li> <li>3. 学校事務担当者</li> </ol> <p>&lt;公開資料&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 財産目録</li> <li>2. 貸借対照表</li> <li>3. 資金収支計算書</li> <li>4. 消費収支計算書</li> <li>5. 監査報告書</li> </ol> <p>&lt;閲覧場所&gt;</p> <p>法人本部</p>	<p>4 ④ 3・2・1</p>	<p>・健全に運営されている。(相川委員)・財務チェックを毎月行うと共に、情報公開もされており健全であると評価する。(案西委員) ・定期的に監査も実施されており良いと思う。(福田委員) ・適切に運用されており、不安に感じる部分はない。(西村委員) ・財務情報も公開されており、これからも健全な学校運営を継続してもらいたい。(岩橋委員) ・安定かつ健全な財務、経営がなされ、末永く運営されることを願っている。(松枝委員)</p>																																																

<p>9 法令等の遵守</p>	<p>1. 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか 2. 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか 3. 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか 4. 自己評価結果を公表しているか 5. 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか 6. 学校関係者評価結果を公表しているか 7. 教育情報に関する情報公開を積極的にしているか</p>	<p>4</p>	<p>1. 法令や設置基準の遵守に対する方針は、滋慶学園グループとして明文化され、法令遵守に対応する体制は整備できている。また、各校の教職員全員でその方針を理解し、実行に努めると共に、現場に於いては、ガバナンスを十分に利かせた学校運営を行っている。そして、学校運営が適切かどうかは、次の各調査等を通してチェックし、法人理事会のもとにコンプライアンス委員会が判断している。 ①学校法人調査 ②自己点検・自己評価 ③学校基本調査 ④専修学校各種学校調査 ⑤学校施設認定規則に基づく報告</p> <p>2. 資料請求者、在校生、卒業生、教職員、講師、実習先など学校が保有する個人情報、個人情報保護法に基づいて、厳格に管理・保護されている。また、学生、教職員、講師は、毎年ITリテラシーテストを受けて、個人情報保護及びインターネットやSNSでのトラブルに係る知識の充実を図っている。</p> <p>3. 4. 毎年、自己評価・自己点検を実施し、その結果をホームページ等で公開している。</p> <p>5. 6. 学校評価規定に基づき学校関係者評価委員会を組織し、自己評価・自己点検を基に外部委員による学校関係者評価を行い、その結果をホームページ等で公開している。</p> <p>7. 情報公開規定に基づき、あらゆる教育情報をホームページ、各種SNS、学校パンフレット、オープンキャンパスなど様々な方法で随時公開している。</p>	<p>&lt;法令順守に係る組織体制・システム&gt;</p> <p>(A)組織体制 ①財務情報公開体制(学校法人) ②個人情報管理体制(滋慶学園グループ) ③広告倫理委員会(滋慶学園グループ)</p> <p>(B)システム(管理システム) ①個人情報管理システム(滋慶学園グループ) ②建物安全管理システム(滋慶学園グループ) ③防災管理システム(滋慶学園グループ) ④部品購入棚卸システム(滋慶学園グループ) ⑤コンピュータ管理システム(COMグループ)</p> <p>学内にコンプライアンス委員会を設置し、厳格なコンプライアンスの遵守に努めている。委員長は、統括責任者である法人の運営部長が就任し、委員は学校の現場責任者である事務局長と実務責任者の教務部長等で構成される。</p> <p>主な任務は、行動規範・コンプライアンス規程の作成、コンプライアンスに関する教育・研修の実施、コンプライアンス抵触事案への対応及び再発防止対策の検討・実施、コンプライアンスの周知徹底のための啓蒙活動の推進である。</p> <p>監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象としてコンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。</p>	<p>④ 3・2・1</p>	<p>・SNSの怖さやネットリテラシーを教育しても最終的には個人に任せられる。個人の不適切な発信でいじめ等の問題が発生した場合、発信者の特定や処罰をするのか。(丸田委員)→学校では犯人探しや処罰は行っていない。全体に向けて根気強く教育を続けている。 ・コンプライアンス委員会を設置しておりチェック機能があるので問題ないと思われる。(案西委員) ・しっかり情報公開がなされており問題ない。(福田委員) ・法令遵守は学校、教職員、学生を守る上でも必要なことである。毎年アップデートしながら、適切に運営してほしい。(西村委員) ・各種調査を実施しており、問題把握の取り組みも十分である。(岩橋委員) ・法令遵守は問題ないと思う。SNSでの配信を通して学校・学生の様子がわかるのでうれしく思う。(松枝委員) ・ITリテラシーテストの非常勤講師の受講率を上げることが重要である。(谷口委員)</p>
<p>10 社会貢献</p>	<p>1. 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 2. 国際交流に取り組んでいるか 3. 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか</p>	<p>3</p>	<p>1. 本校では例年、業界団体や企業、行政、高等学校等の教育機関、地域等とタイアップして行うスポーツイベント、障害者支援イベント、市民イベント、救護活動、救命講習、公園清掃、中学や高校での特別講義やスクールトレーナー活動など様々な取組を実施している。</p> <p>また、滋慶学園グループが推進する「地球温暖化防止対策」運動を通して、節電、冷房28度・暖房20度設定、階段利用促進(2アップ3ダウン)、ゴミ削減、資源有効利用などの取組を実施している。</p> <p>産学連携教育というコンセプトの下、日々の授業や実習等がそのまま社会貢献につながるような企画を増やし、社会・地域と学校・学生が、win-winの関係になるよう努めている。</p> <p>2. 国際交流や留学生支援を包括的に実施する機関として国際交流COMがあり、留学生支援を始めとして国際交流に当たっている。滋慶学園福岡各校にも、様々な国から多くの留学生が入学しており、国を超えた交流イベントも積極的に実施している。</p> <p>3. 学生の社会貢献並びにキャリア教育の一環として、学生のボランティア活動を奨励・支援している。学科によっては、単位認定条件を定め、ボランティア活動に参加した学生に対し、一定の基準を満たす者には特別単位を認定している。</p> <p>しかし、2021年度においては、新型コロナウイルス感染拡大の影響で様々なイベントが軒並み中止となり活動機会が極端に減ったことに加え、感染拡大防止の観点から学生が自主的に行ってきた各種社会貢献活動、地域貢献活動も自粛せざるを得ない状況となった。昨年度、中止もしくは自粛した主な活動は、金鷲旗柔道大会、玉竜旗剣道大会のメディカルサポート、サニックスワールドユースラグビー大会のメディカルサポート、全国高等学校総合体育大会(インターハイ)メディカルサポート、高等学校や福祉施設等での救命講習会の開催、各種団体・自治体主催のスポーツイベント支援、FBS24時間テレビ募金活動支援等々多岐に渡り、結果として十分な社会貢献活動ができなかった。</p>	<p>2021年度に実施した主な社会貢献活動</p> <p>① 全国高等学校選抜自転車競技大会のメディカルサポート ② 高等学校柔道大会の救護活動 ③ 各種団体とタイアップして行う一部のイベント支援 ④ 献血活動への協力(任意)</p>	<p>④ 3・2・1</p>	<p>・小学校、中学校、高校などに対するイベントをより多く実施することで、将来貴校への志望者が増える可能性があるため、積極的に実施するべきである。(中西委員) ・ウイズコロナの時代へ変遷している中、社会貢献活動が再開されていることに安心した。学生にとってはこの学外体験こそが、社会に出る上での財産となる。(丸田委員) ・コロナ禍においてもよく努力をしている。(相川委員) ・対外イベントへの積極的な参加や協力をしており評価する。(案西委員) ・コロナ禍で様々な制限がある中では今実施されたぐらいで十分である。(福田委員) ・コロナ感染症が収束後に期待する。留学生に対して、ごみの出し方など日本の良き文化を伝えてほしい。(要委員) ・素晴らしい取り組みがなされている。コロナ禍収束後のフルスベックでの活用を期待する。(西村委員) ・コロナ禍で活動が制限される部分もあるが、でき得る社会貢献活動を継続して行ってほしい。(岩橋委員) ・インスタでイベントを支援する様子をよく見かける。学生にとっても良い刺激になるし、サポートをしている学生の様子は見ている保護者としても誇らしい気持ちになる。(松枝委員) ・学生のボランティア活動は社会貢献のみならず、学生の経験にもつながるので積極的に取り組んでほしい。(谷口委員) ・ここ2年間のコロナ禍の経験を踏まえて、社会や地域貢献を期待する。(成崎)</p>